

家政学部建築・デザイン学科3年生による

ワークショップ型演習「建築&デザイン総合演習」による神保町を舞台とした地域連携プロジェクト

建築&デザイン総合演習とは？

家政学部建築・デザイン学科の建築コース・デザインコースの2コース、建築分野・インテリア分野・まちづくり分野・グラフィック分野・プロダクト分野の5分野の学部3年生が垣根を越えて、横断的に繋ぐチームを編成し、互いに競い合いながら、「空間」と「モノ」を対象として、リアルな社会課題に対して提案を行い、作品を制作するのがこの演習です。よって学科の全教員が指導にあたります。

産学連携の課題だけでなく、毎年「神保町を元気にする」をテーマに、各チームで神保町を調査し、必要な空間・機能・モノを抽出し具体的な空間とそこで必要な家具やサイン等をトータルに計画し、創造・提案することを行っております。

毎年、最終講評会には地元の方々をお招きして様々なご意見をいただいております。昨年度までの2年間はオンラインでの講評会でしたが、今年度からは対面とオンラインのハイブリッド形式で行いました。

今年度は「じんぼうチョウの住処(すみか)計画」と題した、さくら通りにじんぼうチョウと学生たちが、家をまちに開く「いえ開き」をするという前提のもとにさくら通りの敷地を用いて、原則、1階がじんぼうちょうの活動場所(まちとの接点)、2階以上には神保町とじんぼうチョウを愛する人たち(学生)が住むシェアハウスを計画します。

今年度からは夏期集中演習となり、夏休み最後の1週間でアウトプットまで作成するという非常にハードなスケジュールにも負けず、学生たちは作業を行ってきました。



じんぼうチョウのすみか計画

この課題の概要

今回、学生たちはさくら通りの落ち着いた雰囲気を活かして、課題の対象となっている細長い敷地に、学生とまちの人たちとの交流の場となる結節点をつくらうと計画しました。コンセプトは「癒やし」であり、全体テーマは居心地や心地よさを表す「Cocochi」です。この計画のターゲット層は、神保町に通勤する男性や共立以外の学生です。

この建築の1~2階では共立生がコミュニティカフェを営み、ここでは植物やコーヒーグッズが販売され、レコードの音楽が流れる空間で珈琲を飲むことができ、ゆったりとしたひとときを過ごすことができます。この空間を構成するプロダクトデザイン・グラフィックデザインは共立の学生たちの作品でもあります。購入した植物はこの空間で育ててもらうことができ、それをじんぼうチョウが担当します。3階以上はここで働く共立生たちのシェアハウスであり、まちで学び、まちで暮らしながら、神保町を盛り上げます。



▲ロゴデザイン



▲エプロンデザイン



▲Cocochiのインテリア

◀さくら通り側
店舗ファサードのデザイン

▲植木鉢のデザイン



◀▲コーヒーの消臭グッズ

◀▲コーヒーを楽しむための
グッズデザイン

1階平面図



2階平面図



3階平面図



4階平面図



屋上階平面図



南北断面図